

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は 101 ~ 106 円台で荒れた動きか

[ 3月16日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		3月9日~3月13日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	104.92	106.10(12)	101.19(9)	105.58	+0.19
ユーロ・ドル	1.1293	1.1495(9)	1.1056(12)	1.1198	-0.0086
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	17,431.05	-3318.70	日本10年債利回り	0.010	+0.131
ダウ平均株価	21,200.62	-4664.16	米10年債利回り	0.804	+0.042
=====					

< 来週の主要経済統計等 >

- 16日 日本1月機械受注高
  - 英3月ライトムーブ住宅価格
  - 中国2月鉱工業生産指数、中国2月小売売上高
  - スイス2月生産者・輸入価格
  - 米3月NY連銀製造業景気指数
  - 米1月対米証券投資
- 17日 豪第4四半期住宅価格指数
  - 日本1月鉱工業生産指数確報値
  - 英2月雇用統計
  - 独3月ZEW景況感指数
  - カナダ1月製造業出荷
  - 米2月小売売上高
  - 米2月鉱工業生産・設備稼働率
- 18日 NZ第4四半期経常収支
  - 日本2月貿易収支
  - ユーロ圏2月消費者物価指数確報値、ユーロ圏1月貿易収支
  - 米MBA住宅ローン申請件数
  - 米2月住宅着工・建築許可件数
  - カナダ2月消費者物価指数
  - 米連邦公開市場委員会 (FOMC、17~18日) 政策金利
- 19日 NZ第4四半期国内総生産 (GDP)
  - 日本2月消費者物価指数
  - 豪2月雇用統計
  - 日銀金融政策決定会合 (18~19日) 金融政策発表
  - スイス銀行 (SNB) 政策金利
  - 米第4四半期経常収支
  - 米3月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数
  - 米2月景気先行指数
- 20日 独2月生産者物価指数
  - ユーロ圏1月经常収支
  - カナダ1月小売売上高
  - 米2月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】日米など各国の株安や米長期金利の低下は円買いにつながりやす  
く、ドル円はテクニカル面のリバウンドを除くと上昇しにくい。ドル円は引き続き上値

の重い展開となり、下げが加速すると105円の節目を試す可能性も出てくるとした。

#### 【各国の株価は大荒れの展開】

新型コロナウイルスの感染拡大が世界的な広がりを見せている。11日の世界保健機関（WHO）が「パンデミック（世界的な流行）」と言えとの見解を表明した。各国の株式市場をはじめとして、金融市場では大きく混乱しており、世界的な株安の連鎖が起きている。

石油輸出国機構（OPEC）と非OPEC主要産油国で構成される「OPECプラス」が減産強化で合意に至らなかったことを受けて、週明けの9日の東京時間に原油価格が暴落した。NY原油は一時13.94ドル安の27.34ドル（33.77%安）の暴落となった。その後は安値圏でのみみ合いが続いている。

原油の暴落や新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を嫌気して、9日の米国株は大幅安となり、NYダウは2013ドル安と過去最大の下げ幅となった。NYダウは10日に1167ドル高。11日に1164ドル安と乱高下しながら下値を探る展開となっている。NYダウは2月12日の最高値から20%下げており、弱気相場入りとの見方が広がった。さらに12日のNYダウは2352ドル安と過去最大の下げ幅を更新した。12日の東京時間の午前にトランプ米大統領の演説で、「英国を除く欧州からの渡航を3日間停止する」と表明しており、世界経済が一段と減速するとの警戒感が圧迫要因となった。

ドル円は、9日の東京市場では前週末の米株安や円高に加えて、原油の暴落やNYダウ先物の急落などを受けて101円台半ばまでドル安円高が進んだ。新型コロナウイルスの脅威だけでなく、原油の暴落という要因が新たな重石となった。その後のNY市場で101円台前半までドル安円高が進行した。その後、10日に105円台後半まで上昇、12日に103円近くまで下落して、その後106円台まで上昇するなど、連日荒れた展開を見せている。

米連邦準備制度理事会（FRB）は3日に臨時の米連邦公開市場委員会（FOMC）を開催して政策金利の0.5%の引き下げを決定した。3月17～18日のFOMCでは一段の大幅利下げとの見方が広がっている。CME FEDウォッチでは次回FOMCでの1.00%の利下げ確率は90%前後に上昇している。

米10年物国債利回りは安全資産への逃避から債券買い（利回り低下）により、9日に過去最低水準となる0.313%前後まで一時低下した。その後はやや利回りは上昇に転じて、12日に一時0.902%前後まで戻した。米長期金利も荒れた動きで方向性が見出しにくくなっている。

ドル円は101～106円台での荒れた展開が続いている。リスク回避の円高が警戒されるものの、ドルも買われており、ドル円は比較的底堅い動きを見せている。日米など各国の株価動向や米長期金利の動きを眺めながら、目先は101～106円台のレンジで荒れた動きとなりそうだ。ただ、一段の株安や米長期金利の低下となれば、100円を試す可能性もありそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、100.00～106.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に日本1月機械受注高、米3月NY連銀製造業景気指数、米1月対米証券投資、17日に日本1月鉱工業生産指数確報値、米2月小売売上高、米2月鉱工業生産・設備稼働率、18日に日本2月貿易収支、米MBA住宅ローン申請件数、米2月住宅着工・建築許可件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、17～18日）政策金利、19日に日本2月消費者物価指数、日銀金融政策決定会合（18～19日）金融政策発表、米第4四半期経常収支、米3月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米2月景気先行指数、20日に米2月中古住宅販売件数などがある。

#### 【ユーロドルは高値圏から下げに転じる】

9日には米長期金利の低下などを背景にドル売りの動きとなり、1.15手前まで上

昇した。その後は欧州中央銀行（ECB）理事会での金融緩和観測やリスク回避のドル買いの動きなどから一時1.10台半ばまで値を崩した。

12日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、利下げは見送られたものの、量的緩和の拡大を決定した。現在は月額200億ユーロの国債などを購入しているが、これに加えて年末までに1200億ユーロの資産を追加で購入する。また、中小企業の資金繰りの支援のため、最低でマイナス0.75%という低水準で銀行に資金を貸し出すことも決めた。ラガルド総裁は、新型コロナウイルスの感染拡大が経済活動に大きな影響を及ぼすとの見解を示した。

米国株など各国の株価が急落する中で、リスク回避のドル買いの動きに傾きやすとみられる。ユーロは対ドルで売られやすい地合いが続くとみられ、ユーロドルは上値の重い展開が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0950～1.1350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に英3月ライトムーブ住宅価格、中国2月鉱工業生産指数、中国2月小売売上高、スイス2月生産者・輸入価格、17日に豪第4四半期住宅価格指数、英2月雇用統計、独3月ZEW景況感指数、カナダ1月製造業出荷、18日にNZ第4四半期経常収支、ユーロ圏2月消費者物価指数確報値、ユーロ圏1月貿易収支、カナダ2月消費者物価指数、19日にNZ第4四半期国内総生産（GDP）、豪2月雇用統計、スイス銀行（SNB）政策金利、20日に独2月生産者物価指数、ユーロ圏1月经常収支、カナダ1月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。